

今年度、南丹市教育委員会は大きな機構変更をおこない、教育委員会内に新たに「こども家庭センター」を設置しました。これまでの学校教育・社会教育の柱に、こども家庭と幼児教育・保育推進の柱が加わり、新たな「南丹市教育委員会」となりました。

「こども家庭センター」は、「子育て支援」「母子保健」を進める「こども家庭課」と、就学前教育を進める「幼児教育・保育推進課」で構成しています。これにより、南丹市の大切な子どもたちを誕生前から義務教育修了まで、教育委員会が一体となって見守り育成する組織体制になりました。教育・福祉・保健分野が切れ目なく連携し、「こどもありき」「こどもまんなか」の視点で一体的支援・施策を展開し、「学びたい教育がある南丹市」を実現できる教育行政を推進したいと考えています。

「受けたい教育がある南丹市」をめざして

昨年4月に教育長に就任し、南丹市の強みと課題を分析しました。南丹市教育の強みについては、「南丹市の教育」第27号で掲載しました。学力的課題と不登校児童生徒増の2つの課題を克服するため、現在、4つの事業を実施しています。

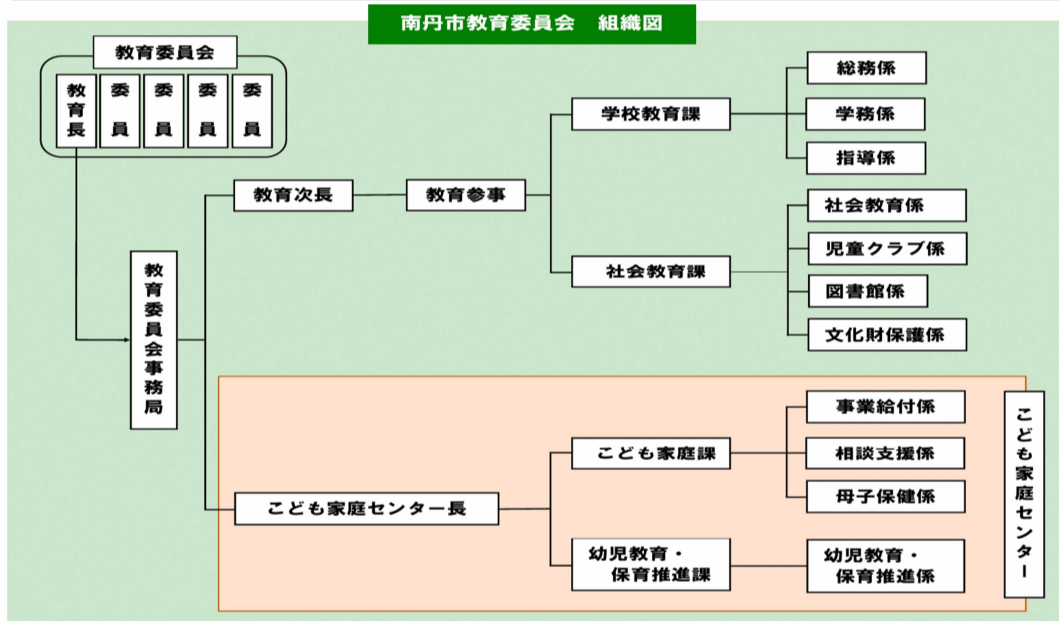
- ①南丹市立学校に通う全小学生と全中学生に「AIドリルすらら」を導入・・・一人ひとりの理解度にあった問題が出題されるので、自分のつまづきポイントを理解し、一人でも学び続けることができることで個別最適な学びの実現と、一人ひとりの学力の向上を目指します。
- ②ことばの力育成を目指して、全小学校に「表紙の見える書架」と「ソファ」を設置・・・旧コンピューター室を活用して、読書環境充実に向けた教室に模様替えしました。表紙が見えることで本をより身近なものに感じて選び、選んだ本をリラックスして読むことができる環境を実現しました。
- ③読書活動の推進や学力向上の推進にむけて、全中学校に12の個別集中ブースを設置しました。
- ④文部科学省指定「不登校児童生徒等の早期発見・早期支援事業」を受け、各小・中学校に「教育支援センターさくら分室」を設置します。

機構変更やこれらの事業により、「受けたい教育がある南丹市」の実現に向けて教育行政を推進したいと考えておりますので、ご支援・ご協力の程、よろしくお願いいたします。

南丹市教育委員会 教育長 國府 常芳

※AIドリルすらら・書架・ソファ・個別集中ブースの各事業は、京都府「子どもの教育のための総合交付金」を活用し、府と市がそれぞれ事業費1/2を負担する形で実施することができました。

令和6年度に「こども家庭センター」設置（教育委員会所管）



令和6年度 4つの事業

① AIドリルすららの活用



② 表紙の見える書架、ソファ



③ 個別集中ブースでの学習



④ 教育支援センターさくら分室（R6.7開始）

◇各幼稚園・小学校・中学校における特色ある取り組み◇

園部幼稚園



生き物との出会いの中で...

園庭で見つけた幼虫。興味を持った5歳児の子ども達が図鑑で調べてみると「ツマグロヒョウモン」の幼虫だとわかり、みんなで名前を決めて大切に育てることにしました。幼虫のことを知りたいと思った子どもたちは、図書館に出かけ、幼虫を羽化させるために好きな食べ物等を調べ、外にかえすまで毎日お話をしました。見事、羽化に成功し外にかえす日、子どもたちは寂しい気持ちを感じながらも空高く羽ばたく蝶を見て「またねー！」と安心した様子でした。生き物との触れ合いを通して生き物を大切にしようとする気持ちが芽生えるきっかけとなりました。

八木中央幼稚園



「誕生日おめでとう！」～生まれてきてくれて ありがとう～

今年度、玄関ホールに誕生月の子どもの写真を掲示しています。「今日は〇〇さんの誕生日だね。」情報は身近な人へと伝達され、「おめでとう」の輪が広がります。その日に合わせてこっそりプレゼントを作って渡したり歌を歌ってあげたりする友達の姿が見られます。誰にでも訪れる年に一度の誕生日は特別な一日です。自分が生まれたことを喜んでくれる人がいることを存分に感じて欲しいと思います。そして、かけがえのない存在であるということを伝えていきたいと思っています。

園部小学校



ICTを活用した授業

学習活動の一層の充実や授業改善のため、ICTを活用した授業づくりや授業展開を日々行っています。調べた情報や自分の考えを分かりやすくまとめる、互いの考えを比較・共有する等、タブレットを使うことにより、児童が主体となった対話的な学びを充実させています。授業での学習だけでなく、AI教材の「すららドリル」を活用し、一人一人の教育的ニーズや学習状況に応じた個別学習も進められるようにしています。また、全職員で月1回程度ICT研修を行っており、どの教員もICTを使いこなせるように日々研鑽しているところです。

園部第二小学校



なかよし班ウォークラリーと米作り活動体験の様子

本校では、協働性の高い校区の強みを活かし、今年度も地域の方々とともに、校区のよさを知るために、様々な自然体験・社会体験等をすすめていく予定です。とりわけ、学校運営協議会の皆様には、児童に直接関わり教育活動をとら行う中で、地域総がかりの教育の取組を進めていただいています。これらの活動を通じた人々とのふれあいの中で、「ふるさと」について、よく知り、親しみを持ち、自ら関わっていかうとする、「ふるさとを愛する心」を育てていきたいと思っています。

八木西小学校



民間企業とICT機器を活用しての学習

八木西小学校の児童は、6年生になると総合的な学習の時間でキャリア教育に取り組みます。

キャリア教育とは、将来の社会的・職業的自立に向けて、必要な基盤となる能力や態度を育てることです。1年間を通して、地域の方の協力を得ながら職場体験に取り組み、様々な社会人と交流することで、『働くこと』を理解していきます。

あこがれとする自分の将来の姿を考え、将来に夢や希望をもち、その実現を目指して努力することができるよう取り組んでいます。

八木東小学校



「伝えたい」「聴きたい」という思いが表情に現れる児童

本校では、「主体的に学び、つながり合い、自ら動き出す児童の育成」を目指して、研究に取り組んでいます。その取組の1つとして、「コミュニケーションタイム」を月に1回実施しています。約10分間、「質問じゃんけん」「二者択一」など、簡単なゲームを通して、児童の伝え合う力を育てています。また、仲間の新たな一面やよさに気付く機会にもなっています。

人と人とのつながりを増やし、仲間を大切にしながら、何でも話し合える温かい集団づくりを基盤に、自ら伝える力や考えを深める力を伸ばしていきたいです。

殿田小学校



元気が一番 輝け！ ひよし大好き 殿田の子

「きれいやなあ」「大きくなるといいなあ」

1・2年生が、大堰川漁業協同組合の皆様にご協力いただき、学校の前の川で稚鮎の放流を行ったときの子どもの声です。初めて触る稚鮎の感触に驚き、小さな魚が生きていることを実感する素晴らしい学びとなりました。

まさに本物との出会いによって生まれる豊かな感性やきらきらと輝くような喜びがあふれた時間でした。「ひよしで育ち・ひよしに学び・ひよしを元気にする」教育活動の中で豊かな心が育っています。

胡麻郷小学校



図書委員会児童によるおすすめの本紹介

本校では「生まれ！本大好キッズ」をテーマに、子ども読書の日に合わせ、年度初めに読書集会を行っています。

集会では、図書委員会児童とボランティアの方によるおすすめの本紹介や、ことばの力育成支援員の利用指導を行い、児童が読書に興味をもち、読書環境を支えている人たちのことを知るきっかけとなっています。

他にも、リクエスト図書や書架を活用した季節や行事に合わせた本紹介、図書便りの発行等を行っています。これらの取組を通して、児童が読書に親しみ、言語力を育てるとともに心が一層豊かになることを目指し、読書活動を推進していきます。

美山小学校



町内ホームステイの様子

学校運営協議会(小学校部会)でも話題に挙げられましたが、地域の方が子どもたちを宝とご愛顧くださっていることが本校の強みの1つです。

その強みを最大限に活かし、地域の『信頼できる大人』と出会う機会の一つにしているのが「町内ホームステイ」です。今年度も5年生が自分の住んでいる地区以外の10家庭にお世話になりました。子どもたちは、体験を通して愛情をいっぱい受けることができました。

受け入れ先からは「家庭が明るくなり、子ども(孫)が増えたように思いました。」との感想が聞かれるなど、子どもが育つだけでなく、地域を元気にする取り組みにもなりました。

園部中学校



文化観光協会、れいん房、道の駅、南丹法律事務所、教傳寺、KCN南丹様の協力を得ています。

本年度よりPBL(課題解決型学習)を導入しています。この学習は、市内の事業所様や団体様から課題(お題)が提案され、生徒がその解決策を探る(探究)学習です。

今年度は1年生でこの学習をスタートしました。数年後の社会人を視野に入れ、急速に変化していく社会において、たくましく生き抜く基礎的で汎用的な能力が必要と考え取り組んでいます。

解決策は簡単に見つかりませんが、時間をかけて知恵を出しあったり、大人の方との協議やアドバイスをいただいたりしながら、自分たちで最適な答えを見つけてほしいと考えています。

八木中学校



食育「出汁の授業」(1年家庭科)の取組

八木中学校では、1年生家庭科の授業で、食育の取組として「出汁の授業」を行っています。

今年度は、給食でもお世話になっている地元業者の株式会社福島鯉より工場長を講師としてお招きし、出汁の種類やひき方等について、講義に実習も交えて、丁寧に教えていただきました。

1年生は、実際に用意いただいた昆布出汁・鯉出汁・混合出汁の飲み比べや鯉節削り体験等を通して、出汁の良さや奥深さを五感で実感することが出来、普段あまり目にする事のない日本食特有の出汁文化についての学びを深めていました。

殿田中学校



ワークショップの様子

殿田中学校がある日吉町の皆さんは、生徒や教職員のエネルギーになっています。

令和5年度に行ったワークショップには、学校運営協議会・PTA・地域の方々・卒業生、そして生徒と教職員が参加し意見を交流しました。その中で生徒たちは、地域の皆さんから自分たちがどれほど大切にされているのかに気づき、中学生として何かできることはないかを考えました。その結果、行ったのが「感謝の地域清掃」です。

令和6年度もワークショップを開催し、地域の方々の思いに触れることで生徒の「気づき」を促し、日吉のことを「考えて」・「行動する」生徒を育成していきます！

美山中学校



今年も「花いっぱい運動」で地域に元気をお届けします

本校が、地域の皆様とのつながりを大切にする取組として例年行っている「花いっぱい運動」を今年も実施しています。

活動初めは、3年生が農芸高校で育てられたペゴニアとメランポジウムの苗を植え、校舎周辺を飾りました。

このあとは、全校生徒で学校運営協議会委員の皆様や地域の方にも協力いただきながら、花で町を彩り地域の皆様に心と元気を届ける花づくりにも励んでいきます。

桜が丘中学校



全校道徳の様子

桜が丘中学校では、全校道徳の取組を行っています。

この取組は、自分の考えを発表するだけでなく、他者の発表から、多様な考え方等を知る機会の一つとしています。今年は「生きていく上で一番大切なもの」をテーマに発表し、感想交流を行いました。

また、今年は「全校集会」の時間を設定し、取組の振り返りと、より充実した学校生活を送るために自ら考える機会を設け、小グループに分かれて考えを交流しています。

その活動を通じ、表現する力や相手の思いを理解する力の育成だけでなく、お互いの良さを認め合う機会にもなっています。